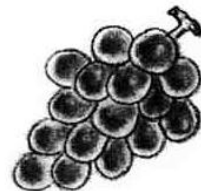


大友氏顕彰会だより

おおとも

第50号

理事長 牧 達夫  
編集 溝部幸祐

## 定例学習会(案内)

当面の定例学習会を、左記により開催します。多数の方々のご参加をお願いします。

会場 南蛮B V N G O交流館「研修室」

(大分市顕徳町3・2・45)

日程 9月5日(土曜) 13時30分～

10月3日(土曜) 13時30分～

11月7日(土曜) 13時30分～

12月5日(土曜) 13時30分～

内容(9月5日)

○風雲児・松平忠直(一伯)公の生涯

○大河ドラマ原案発表(その一)

○宗麟公家督相続四七〇年ステージ寸劇

(練習)

※事前の連絡等は不要ですので、ご自由に参加してください。

## 大友氏顕彰フォーラム(案内)

趣旨

当会の目的は大友氏400年を顕彰して内外にアピールするとともに、大きな目標として「天友氏のNHK大河ドラマ化」をめざしています。これが実現すれば大分が全国的に知れ渡り、大分の観光と地域の活性化を推進できるので、地元住民の盛り上げを図るために開催。

名称

令和2年度・大友氏顕彰フォーラム in 大分(本年度は大分市と佐伯市で開催。佐伯は2月27日予定)

共催

NPO法人大友氏顕彰会  
NHK大河ドラマ「天友宗麟」誘致推進協議会

日時

令和2年10月24日(土曜)  
13時～16時30分

会場

トキハ会館 5階 「ローズ」の間  
○オープニング 原川二郎・大分市歌ほか

○あいさつ

牧達夫・主催者代表挨拶

○ステージ寸劇

会員による宗麟公家督相

続四七〇年ステージ寸劇

○パネルディスカッション

第一部 関東と源頼朝公と大友能直公

●パネラー

坪根伸也・大分市教育委員会

若杉孝宏・顕彰会副理事長

佐藤弘俊・顕彰会副理事長

●コーディネーター

牧 達夫・顕彰会理事長

第二部 宗麟公と立花宗茂公

●パネラー、コーディネーターは第一部と同じ

入場料 (無料)

この「天友氏顕彰フォーラム」は大分市の「あなたが支える市民活動応援事業」の対象事業となっております。

会員を通じて大分市民に応援をお願いしたところ、462人(40万円余り)もの応援届出があり、大分市より**最大補助金30万円**を得ることができました。

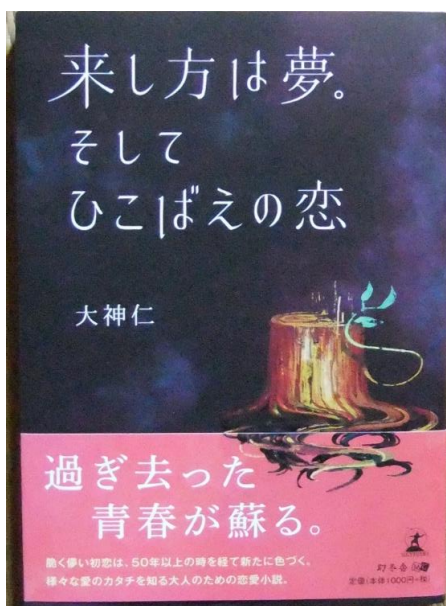
ご支援ご協力をいただきました会員・大分市民に深く感謝申し上げます。

\*新型コロナウイルス感染防止対策

定員120名(満席の30%)にして、入口で検温・除菌を実施、マスク着用。

## 本の販売について(連絡)

ある会員が酒を飲みながら親友(著者・大神仁)に語ったことを参考に、虚実を取り混ぜた小説(一代記)にした本が発行されましたので紹介致します。



私はこの本を読み、テンポ良く、あらゆる恋もちりばめられており、大変楽しく、一気に読ませていただきました。

本の定価は1100円(送料込み)です。希望者は左記へ連絡願います。

溝部幸祐(大友氏顕彰会事務局長)

住所〒870-0844大分市古国府7-3

電話・FAX 097-544-2283

携帯 090-5485-5157

メール mizobe88@plum.plala.or.jp

## 風雲児・松平忠直(一伯公)の一生

牧 達夫(理事長)

## 一、忠直の父・秀康と越前松平家の誕生

## ◎松平忠直の生まれ

忠直は文禄四年(一五九五)、結城秀康の長男として大坂の屋敷で誕生。母は側室中川出雲守の娘(清涼院)。忠直の幼名は長吉丸といった。

## ◎父・秀康とはどんな人

秀康は徳川家康の第二子であり、長子の信康は織田信長により切腹させられているので、秀康は実質的には家康の長子の位置にあったのだが、家康は自分の後の二代將軍には秀康の弟・秀忠を継がせている。

秀康は十一歳の時、豊臣秀吉の養子に出される。これは、天正十二年(一五八四)の家康・織田信雄連合軍と秀吉軍が信長の

後継者争いで「小牧・長久手の戦い」の講和の結果であった。

秀康は大坂で元服し、両方の父から一字ずつもらい「秀康」と称した。秀康はその後、弱冠十四歳で天正十六年(十七年)一五八六(八七)の秀吉の九州征伐(大友宗麟の要望による)に出陣し、その剛勇さは秀吉も認めるほどだったという。

ところが天正十七年(一五八九)、秀吉の側室・淀君(信長の姉お市の子・茶茶)が長男・鶴丸(三歳で死去)を出産すると翌年、養父・秀吉から下総国結城(茨城県結城市)の城主・結城晴朝の養子に出される。そして結城家の養女・鶴姫と結婚し、結城氏の家督と所領十萬一千石を相続し、名も結城秀康と改める。

慶長三年(一五九八)、秀吉が伏見城で他界後の慶長五年(一六〇〇)、天下分け目の「関ヶ原合戦」が起こった。秀康は父家康と参戦し、途中下野国(栃木県)にあった時、石田三成挙兵の情報が入り家康は急遽上方へと移動。秀康は家康に代わって下野宇都宮に待機、上杉景勝らの動きを押

さえた。

この戦功によって同年十一月、秀康は越前国六八万石（他所の所領も含め七五万石とも）を与えられる。越前北庄（福井）藩のはじまりであった。

○慶長八年（一六〇三）、父・家康が征夷大将軍に任ぜられ江戸幕府を開く。

○慶長十年（一六〇五）、家康は將軍職を秀忠に譲り、同時に秀康も正三位権中納言に任用された。この年、秀康は江戸の山手に屋敷が与えられた。これは秀忠の將軍を機に、恒常的な江戸勤めが求められたからであろうか。

こうして江戸で種々の役を命ぜられた秀康であったが、体調が思わしくなく帰国。慶長十二年（一六〇七）四月、北庄城において三四歳の若さで他界した。

## 二、忠直公、十三歳で越前北庄

### （福井）二代藩主に

◎忠直、父秀康の死により越前北庄六八万石の城主（大名）に（慶長十二年・

### 一六〇七）

○忠直は父・秀康が亡くなるまで江戸で暮らしており、十二歳の時に叔父（父・秀康の弟）の二代將軍・秀忠によって元服し、忠の一字をもらい「忠直」と名乗るようになる。

また同時に従四位下侍従三河守に叙任。徳川家にとって、忠直は期待の星であったに違いない。

◎慶長十六年（一六一一）、將軍・秀忠の四女・勝姫と結婚（忠直十七歳）

○徳川一族の中で頭角を表わした花形大名となる。だが翌年、藩を二分する家臣らの対立事件が起き、祖父・家康、叔父・秀忠の聞くとこととなり家臣らは処断される。

○慶長十六年の暮、忠直は諸大名とともに禁裏（御所）・仙洞御所（上皇御所）の普請を命ぜられる。このことは、福井藩が將軍御家門ではなく、一大名として扱われている状況となる。

◎慶長十九年（一六一四）、大坂冬の陣に出陣

○忠直は一万五千人の兵を率い、家康の本隊に従い大坂城の南方に前田利家・井伊直孝・藤堂高虎らと布陣。

○この戦いでは真田幸村の築いた出城「田丸」の戦いで、忠直勢は四〇〇人余りの死者を出すなど大きな損害を受けた。

◎慶長二十・元和元年（一六一五）、

### 大坂夏の陣で忠直大活躍

○再び大坂出陣の命が下ると、忠直は越前軍二万を率い、大坂城一番乗りを果たし、真田幸村をはじめ越前軍の取った首級の数は三六五二を数えた。

○この華々しい戦いぶりを示した忠直に対し、家康は「勲功天下第一」と誉めた。また、初花の茶入、貞宗の佩刀を授ける。また、秀忠からも牧溪筆落雁の画が与えられる。

○同年六月十九日、忠直は従三位参議に任じられた。

◎忠直の越前松平家、尾張・紀伊・水戸家の下に位置づけられる(元和二年)

○元和二年(一六一六)正月元旦、忠直は江戸城で將軍への挨拶を行なった。この時將軍・秀忠への挨拶は尾張義直・紀伊頼宣・水戸頼房・松平忠直・前田利直・池田利隆の順番で入室。

○越前松平家は、官位官職では水戸家より上位にも関わらず尾張・紀伊・水戸家の下に位置づけられたのであった。

◎元和二年(一六一六)四月、徳川幕府を開いた祖父・家康七五歳で他界

○忠直は、家康の葬儀や大坂城の改築等にならずさわる中、江戸参勤や伏見参勤を行なっている(「諸大名参勤作法」)。

○江戸参勤はいわゆる御三家も例外ではな

かった。参勤は將軍家と諸大名の主従関係を表わす重要な政治的行為として位置づけられていた。

○生前の祖父・家康からも、その後継・秀忠からも、大坂夏の陣での恩賞(加増)はなかった。忠直は將軍家に対し、いいしれない不満・怒りが心の中に積もっていたと思われる。

○その後、忠直は將軍家から送り込まれた家老との確執、勝子夫人との不和、参勤の怠り(病氣)等により、藩政に混乱が生じてしまう。

○忠直は自暴自棄になり、元和六年には落髪して「二伯」と号した。

三、元和九年(一六二三)二月、

忠直は配流の身となる

○忠直の母・清涼院が越前へ赴いて忠直に会い、隠居し西国豊後へ移住するようにとの將軍・秀忠の命を伝えた。

○忠直は母の言葉を静かに聞き、反撃の意思もなく了承したといわれている。

○忠直は家康死去後の政權体制等を統合的にみて、いづれこういう事態も予想していたと思われる。(忠直に対し、もし従わなければ軍事行動も將軍・秀忠は用意していた)

○忠直は女性ばかり伴(二十人ぐらい)と愛馬の真田栗毛ほか二疋の馬を連れて、元和九年(一六二三)五月二日、別府湾から配流先の萩原館に着く。(府内藩主・竹中重義御預り、幕府より五千石の賄料)

○忠直は配流時二九歳、六八万石の大大名から五千石賄料の預りの身、いわば天国から地獄への転落の人生。これからどう生きてゆくか、考え込んでいたことだろう。

○忠直の監視役として府内目付が派遣され津守館で忠直が亡くなるまで毎年二人ずつ二年交代で任用された。

○萩原館の滞在は約二年半であったが、その間、最愛の側室お蘭と娘おくせが死亡す

るという不運に見舞われる。

#### 四、寛永三年（一六二六）正月、

##### 忠直は萩原から津守館へ移動

○津守館の普請は、竹中氏をはじめ周辺の諸大名に命じられたという。

○津守館は二一八〇余坪の敷地を有し、四方に大堀、東西に門が構えられ、二〇余棟の建物が建てられていたという。

○この間、忠直は次男・松千代、三男・熊千代、娘おかんをもうけている。

○これら家族の延命息災を願った祈願書が熊野神社に多く残されている。

○忠直は熊野神社をはじめ由原宮・祇園社（弥栄神社）・霊山寺・西光寺などの神社仏閣の再建や寄進に尽くされている。  
また、円寿寺（上野）の住職・寛佐和尚と親しく交流を重ねたという。

○慶安三年（一六五〇）九月十日、忠直は

病を患い五六歳で他界した。遺体は浄土寺（大分市）で火葬され、浄土寺・津守村・高野山に分骨された。

○忠直の遺領五千石は幕府から次男・松千代三千石、三男・熊千代二千石に分けられて相続された。また、松千代以下の遺族は忠直の長男、越前高田城主・松平光長のもとに引き取られた。

○忠直公は人生の半分を徳川家の大大名、半分を豊後の萩原・津守で過ごした。前半は大名としての苦難、後の半分は仏神を篤く信仰し、平穏な日々を送っている。

○忠直公は六八万石の大名という檜舞台から一転、配流の身であったが、十分人情の機微にふれた生涯であったと思う。

地元の人々は、今も「伯さん」と親しく呼んでいる。

#### 五、松平忠直（一伯公）の画像・

##### 人形とゆかりの地

#### 【松平忠直の人形】

（大分市萩原・萩原天神社に保管）



【人形の作成（地元の歴史の会）】



【松平忠直・画像】

『時代を駆けた風雲児松平忠直』

（大分市歴史資料館）より



【真田幸村銅像(左)と幸村戦死の石碑(右)】



( 大 阪 市 天 王 寺 区 逢 坂 ・ 安 居 神 社 )

【 真 田 幸 村 ・ 銅 像 】



( 大 阪 市 天 王 寺 区 玉 造 本 町 )

【 松 平 忠 直 、 津 守 居 館 跡 】



( 大 分 市 津 守 )

【 松 平 忠 直 、 最 初 の 配 流 先  
周 辺 の 萩 原 天 神 社 】



( 大 分 市 萩 原 )

【 真 田 幸 村 ・ 愛 馬 の 墓 ( 碓 島 ) 】



【 碓 島 ( 大 分 市 津 守 字 島 ) 】  
いかりじま



【松平忠直ゆかりの「熊野神社」(碓島)】



【松平忠直の霊廟・六角堂(碓島)】



【真田幸村「出丸城跡・心眼寺」】



(大阪市天王寺区明星学園前)

【一伯公廟・浄土寺(大分市王子西町)】



『時代を駆けた風雲児松平忠直』  
(大分市歴史資料館)より

### 引用・参考文献

○一伯公

柴田義弘

○時代を駆けた風雲児松平忠直

大分市歴史資料館

○南大分および周辺の歴史散歩

牧 達夫

○歴史散歩

大分市観光課